「キャラ」ってなんやねん

田端実和子

　皆さんは普段の生活の中で「キャラ」という言葉をどれくらい使うだろうか。アニメやマンガのキャラクターではなく、人の性格や個性を意味する方の「キャラ」だ。「あそこは陽キャグループだ」とか、「陰キャやんｗｗ」とか、「そういうキャラじゃないから」とか、キャラ崩壊などけっこう耳にすることが多い。私はそれらの言葉があまり好きではない。人をキャラによって縛ったり、逆に縛られている気がするからだ。実際、「実和子ちゃんは優しい」とずっとまわりに言われていた私は、いつでも優しい実和子ちゃんでいなくちゃいけないと思っていたことがある。ここではキャラという言葉は使われていないが縛られるというのはこういうことだ。

　「キャラ」を嫌だと思い始めたのは中学生の時、まわりで陰キャがどうとか陽キャがどうとかいう人が増えてきたことがきっかけだった。小学生の時はそんなものはなかったので驚き、不思議に思った。それと同時にそういう人たちの中で私はどちらかに振り分けられているんだなと思い、なんとなく嫌な気持ちになった。なぜ陽キャと陰キャに分けたがるのか。どちらでもない人は一体何なのだろう。こんなことを考え出すと、自分がどういう人なのかわからなくなって不安になる。悩みだすと止まらなくなってしまう私にとっては非常に危険な言葉だ。だから私はこの言葉たちが苦手なんだと思う。

　そんな私が最近特に気になっている言葉がある。はじめにも出した、「そういうキャラじゃないから。」である。高校生になってからよく耳にするようになった。誰かと話している時や周りから聞こえる会話の中に「ソウイウキャラジャナイカラ。」が出てくると、必ず「キャラってなんやねん」と心の中で、時には口に出してツッコミを入れてしまう。キャラという言葉が性格や個性を意味していることは分かる。しかし、こういうキャラだから私がやらないといけないとか、そういうキャラじゃないから僕はできないなどということを理由に行動するしないを決めるのはすごくもったいないことだと思う。

　かくいう私も、あの人みたいなキャラだったら何でも言えるのになと思ったり、キャラ崩壊だぁ～と驚いたりすることがある。これはこの人はこういう人だと勝手に思っているから起こることだと思う。言ってしまえばキャラの決めつけだ。他人と生活している以上、この人はこういう人だという印象が一人一人につくのは当たり前のことで、決して悪いことではない。しかし、この人はこうだというキャラの決めつけをしてしまうと、勝手にがっかりしたり、その人にプレッシャーをかけたりしてしまうことがある。私がうらやましいと思っているあの人も、実はそのキャラを重く感じてしまっているかもしれないし、みんなからあほなキャラだと認識されているあの人も、実はキャラのことを気にしてまじめな意見を、言いにくくなっているかもしれないのだ。

　自分の場合はどうだろうか。「自分はこうだから」「自分はこう思われているから」と決めつけて動いていたら、本当の自分は七分の一くらいしか出せないと思う。キャラに縛られて自分を出せないのはもちろん困るが、キャラのせいにして逃げるのは何か違う。「こういうキャラだから。」と言って今までと違ったことをするのをあきらめるのは、私には逃げているように見える。自分に多くの人から見た共通の「キャラ」があることに安心しているように見える。それだと楽かもしれないが、何も変わらない。小さい子向けのアニメのキャラクターと同じだ。アニメのキャラクターは「こいつはこういう時はこうする」というような設定がないとわかりにくい上に話が成立しにくい。しかし、私たちはキャラを定める必要は全くない。それぞれが生きていく中でいろいろな場面に出会い、考え方や行動が少しずつ変わっていくのは自然なことだからだ。私もほんの少し前ではキャラという言葉が嫌なくせに、田端実和子ってこういう人という何かがほしいと思っていた。でも今は変わっている。これもキャラを決めることになるといわれればそうかもしれないが、私は田端実和子ってこういう人というはっきりしたものがない人でいたい。

変わることは簡単ではないし、怖いことかもしれない。一回ついてしまったキャラというものは、なかなか変えられないかもしれない。しかし、自分の中で外に発信したい何かができたり、やりたいことができたりしたときには、キャラなんてものは気にせず出していくべきだ。そして周りはそれを受け入れるべきだ。みなさんもぜひ、「変わるのは当たり前」ということを頭の隅に置いておいてほしい。できるならばど真ん中に。きっと他人の見方も自分の見方も変わるはずだ。